

火山防災についての課題と火山防災エキスパート制度について

(財) 砂防・地すべり技術センター

研究顧問 池谷 浩

要旨：火山防災の課題はいろいろあるが行政の担当者や住民にとっての課題を取り上げ、火山について正しい理解をする事が大切であることを説明する。

また、火山防災エキスパート制度について如何にこの制度を活用してもらえるかという視点から実態とその対応方策について述べる。

(1) 火山防災についての課題

■火山防災について知っておくべき事

- ・ 現象の発生間隔が長い
行政も住民も防災意識が持てない
- ・ 危険区域内で開発が進む
過去の災害伝承が消える、対応事例も伝わらない
- ・ 仮に噴火しても何も災害がないと次の噴火も安全と思う
(正常化の偏見が醸成される)
一回ごとに噴火の規模・期間、発生現象が異なる

Point:火山についての正しい理解をする事が大切

(2) 火山防災エキスパート制度について

■制度そのものが知られていない

- ・ 制度の周知
制度を知らないから何を聞いたらよいか解らない
エキスパートを呼ぶ理由がない
- ・ 派遣システム
現地のニーズは多様、これに対応するためのシステムが必要
火山現象、被害、防災対策、等

Point: 制度を良く周知して、派遣先のニーズをしっかりと把握すること、そしてそれに見合った派遣メンバーを決めることが大切

火山防災についての課題と 火山防災エキスパート制度について

火山防災エキスパート

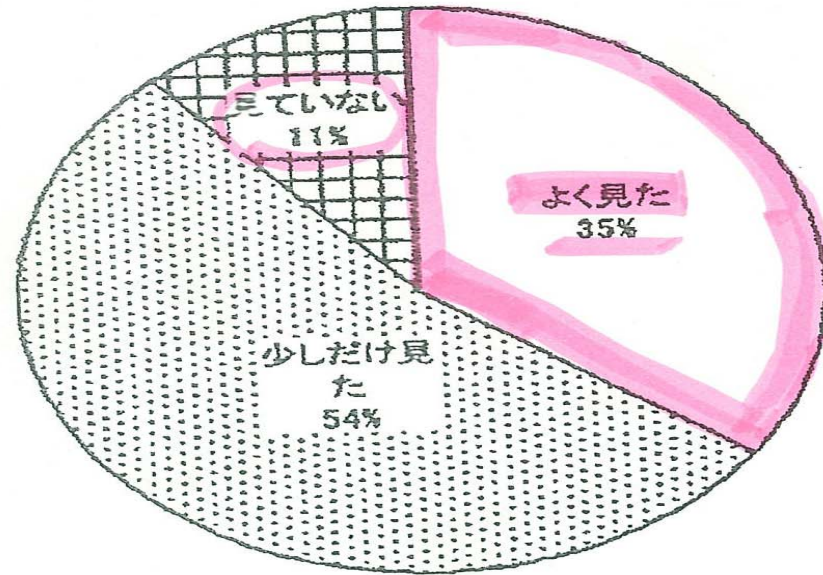
池谷 浩

H14.8
全戸
配布

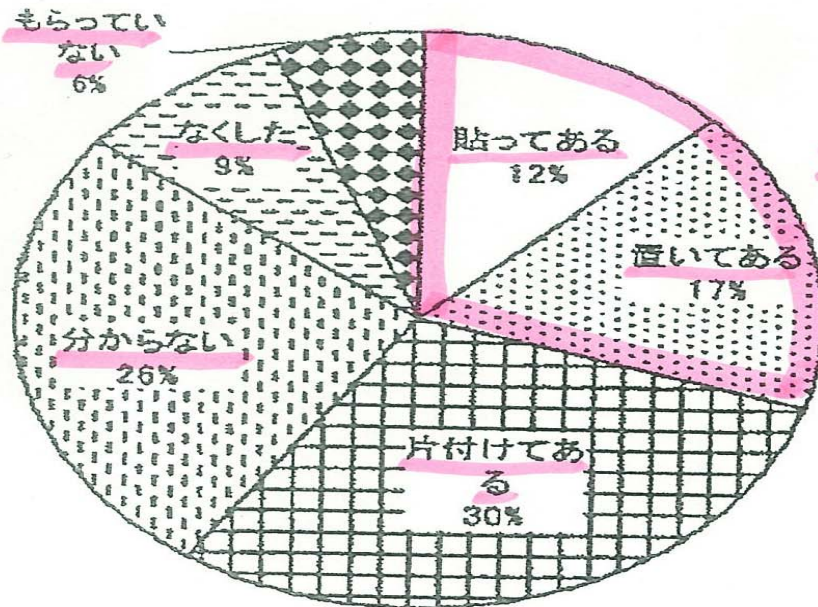
↓
調査

H15.1

「マップを見ましたか」

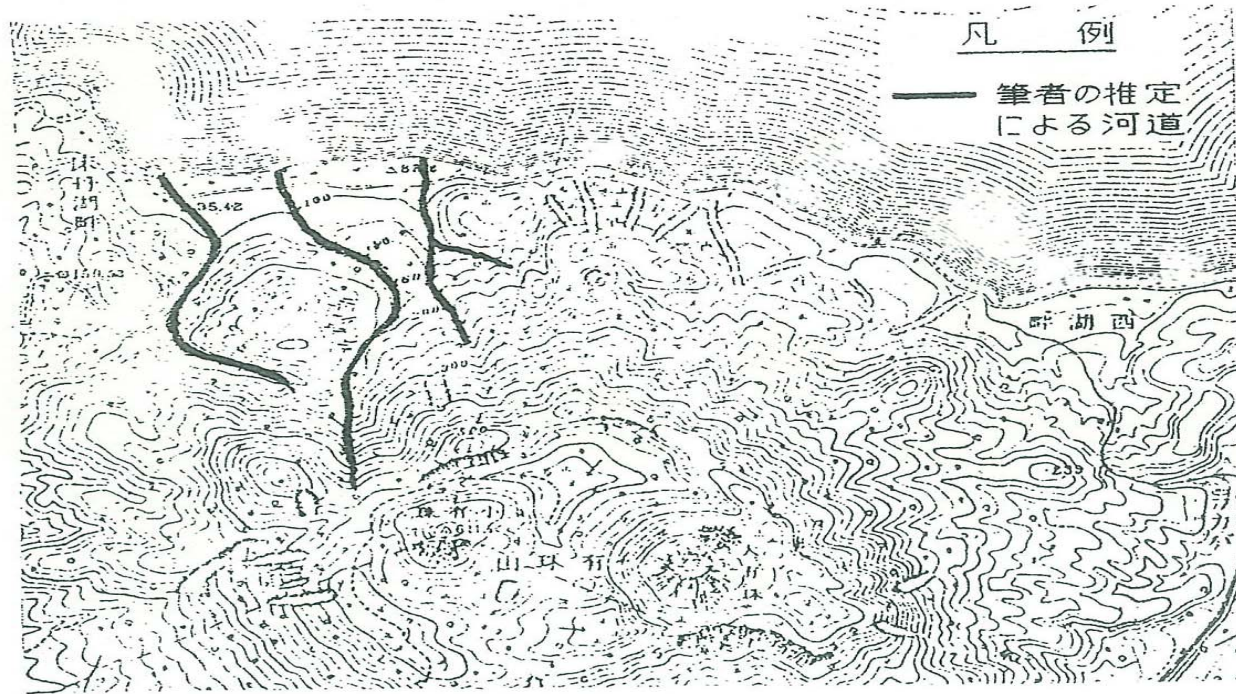


ハガード
マップの
行方は？

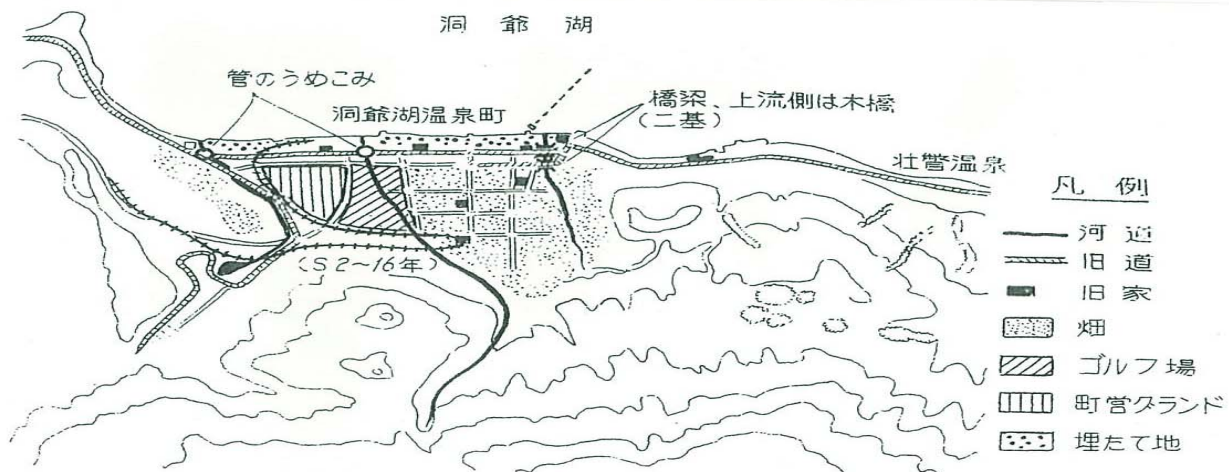


29%

「マップをどう
していますか」

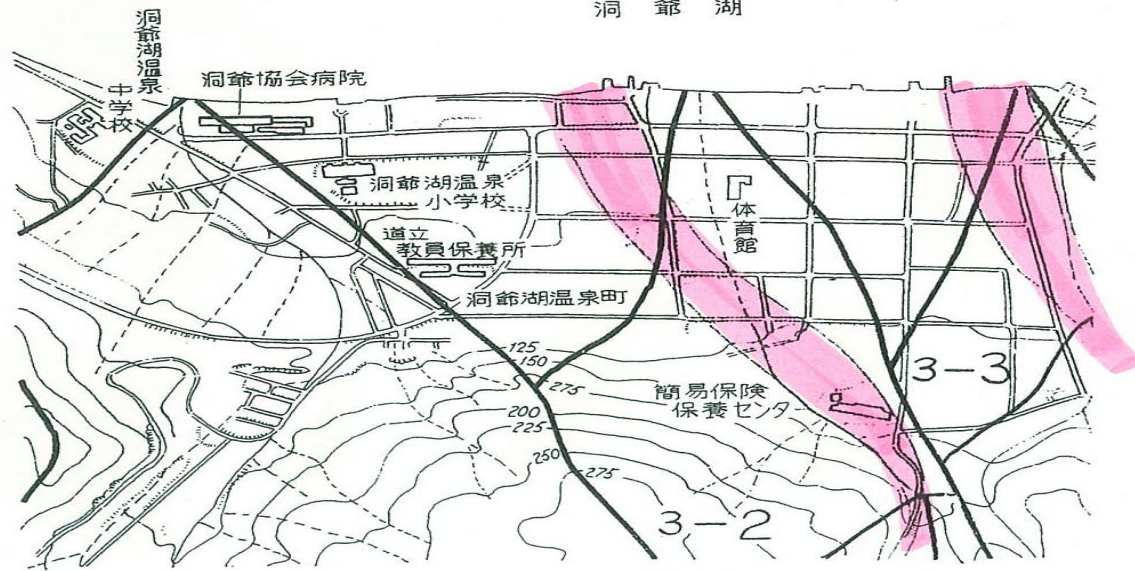


大正9年1月(陸地測量部、S = 1 / 50, 000) の地形図

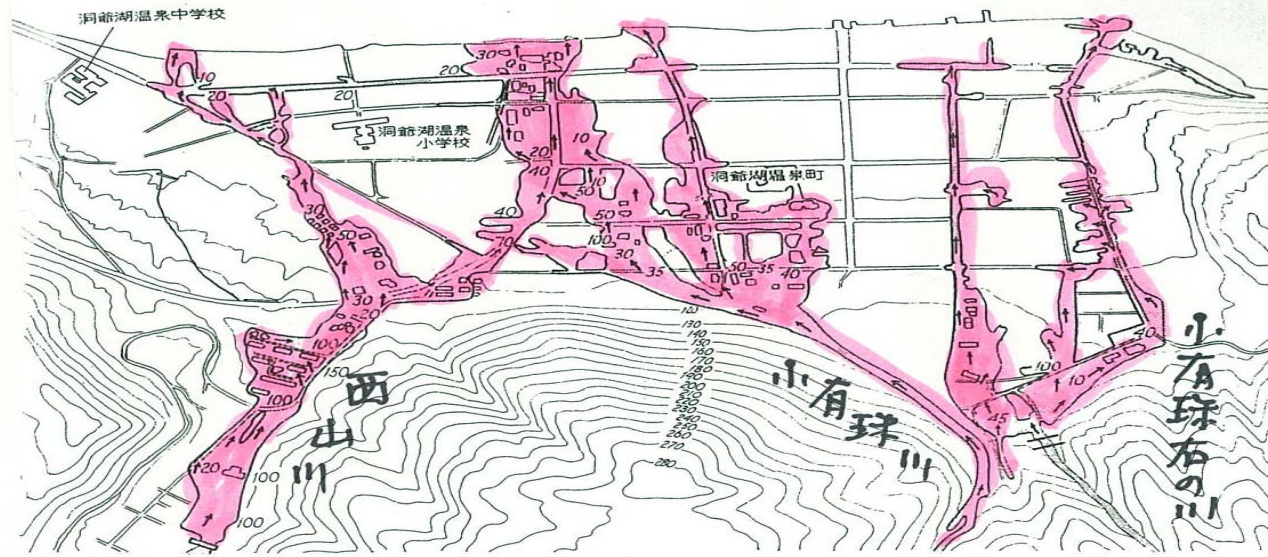


現地聞きこみ、踏査による土地利用図(昭和15年ごろの想定図)

洞 爺 湖



明治43年、四十三山泥流流下氾濫区域



昭和53年10月24日泥流の流下氾濫区域 数字は土砂堆積厚 (cm)

- ・ 8月15日、でなければ23日に大火砕流がおき、2万人の人が犠牲になる。8月に
なければ次は11月に起きると言う話 (女38歳)
- ・ 島原市民の半分くらいが死亡するという話 (女35歳)
- ・ 7月～8月にかけて大噴火がおき、市民2万人死者が出る等 (女35歳)
- ・ 8月に大噴火がおこるので大事なものはまとめておいた方がよい (女42歳)
- ・ ミミ萩原さんの予言 (男39歳)
- ・ 災害で2万人死亡して火山が終息する (7月23日、27日説・11月30日説)
(男33歳)
- ・ 7月末から8月にかけて、2万人の死者が出る。11月も同じ事がある (男41歳)
- ・ 8月から9月頃までに普賢岳の大噴火が発生する予言。大津波による熊本、島原、深
江が大被害を受けるだろう。また、熱灰に島原、深江が埋まるという話など。早めに
長崎方面に逃げて下さい (男46歳)
- ・ 去る7月22日に大爆発が起きて、島原、深江町の間が2万人死ぬと聞いて、毎日
毎日が不安でいっぱいでありました。それでなくてもおびえて生活しているのに、あ
んなデマを書いて、ちらしをポストに入れてもらっては本当に困ります (男61歳)
- ・ 聖母マリアと書いた投書で普賢岳が爆発して、島原の人達が何万人の間が死ぬとい
う事の文章が書いてありました (男40歳)
- ・ 普賢岳の山容が全く変形してしまうまで、火山活動は終息しない。何年先のことが全
く分からない (男54歳)

雲仙普賢岳の火山噴火

発生現象

- 1663年
溶岩流(600万 m^3)、火山泥流
- 1792年
溶岩流(2000万 m^3)、山体崩壊
- 平成噴火
火砕流。土石流